

「結果」で語るな。

「構造」で語れ。

勝敗という「結果論の罠」を抜け出す、最強の思考法

Inspired by PHOENIX-AICHI,
using the charcoal black color

誰もが陥る「たまたま」の罠

1. 何かを変える



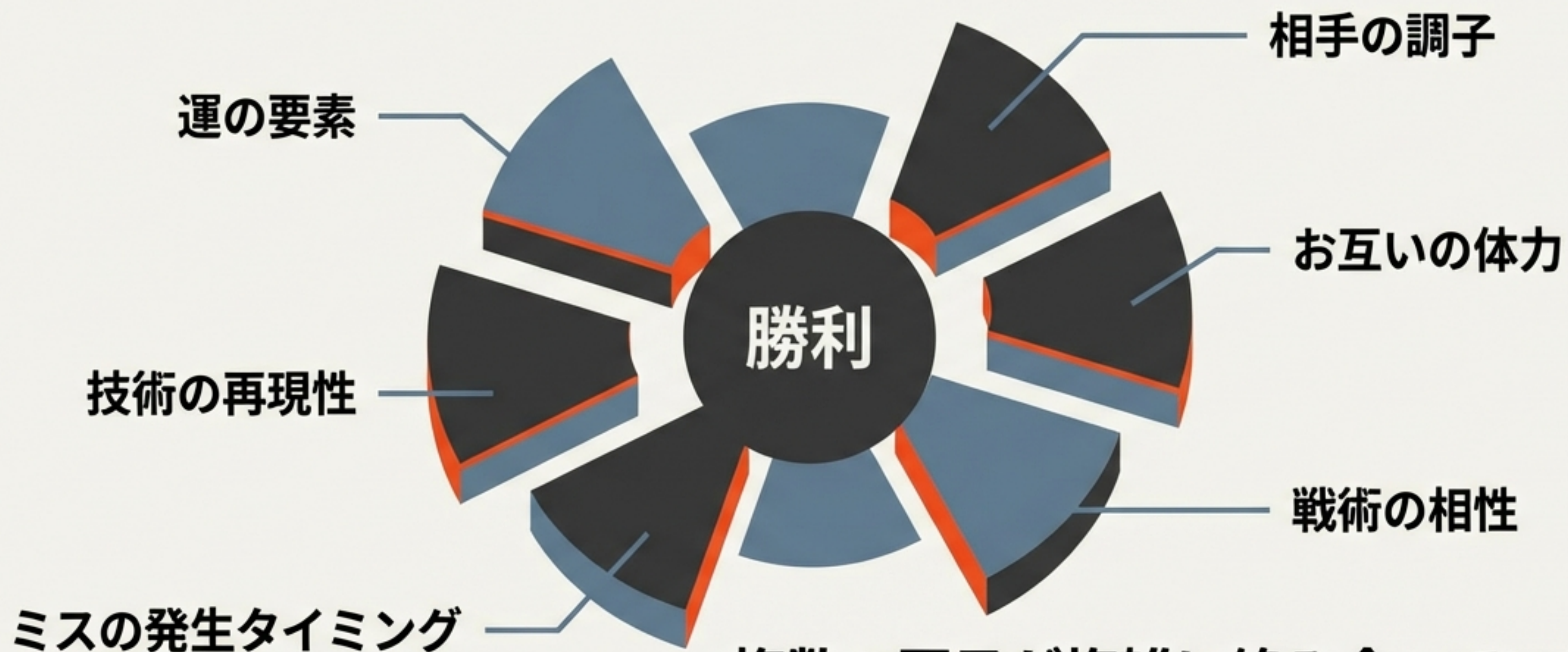
2. たまたま勝つ・良い結果が出る



3. 「このやり方が大正解だ！」と断定する

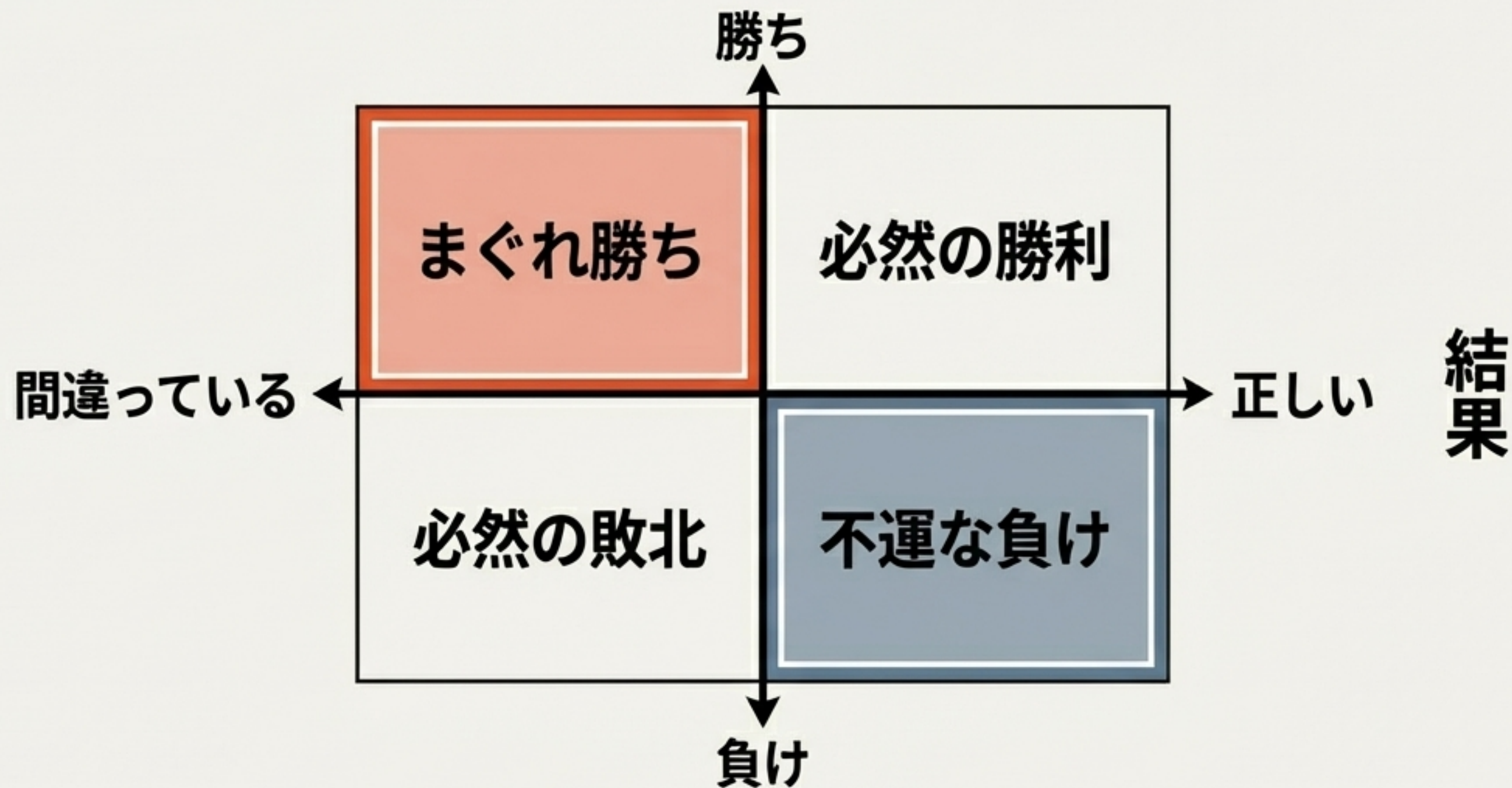
ここには、明確な因果関係の証明はありません。
都合の良い理由を、後付けしているだけです。

勝敗を決めるのは「単一の理由」ではない



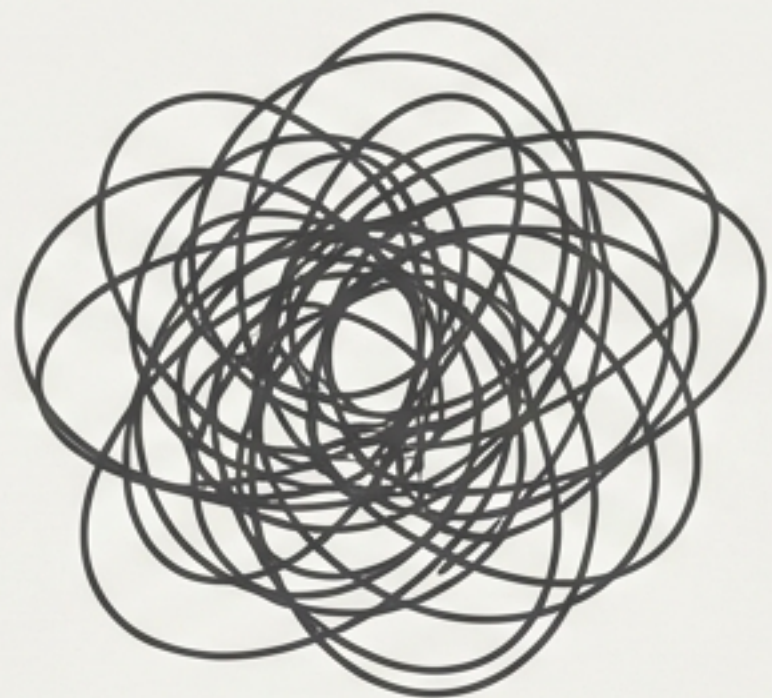
複数の因子が複雑に絡み合っているのに
、「あの一つの行動のおかげだ」と
結びつけるのは、明らかな事実誤認です。

最も危険な「逆転現象」



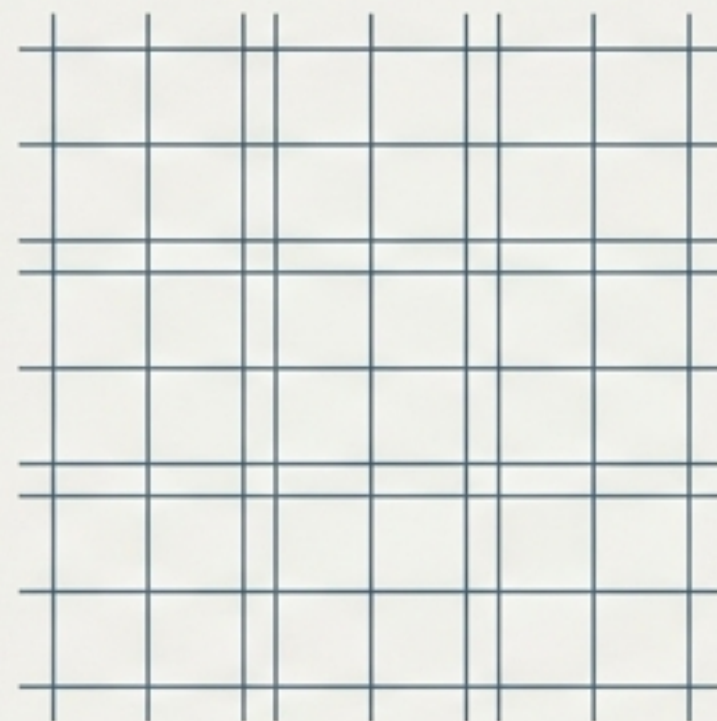
勝敗の二元論で思考すると、「再現性」が完全に失われます。

アマチュアと真の強者を分けるもの



アマチュアは「**結果**」の表面をなぞる。

- ・ 勝った = 正しい
- ・ 負けた = 間違い



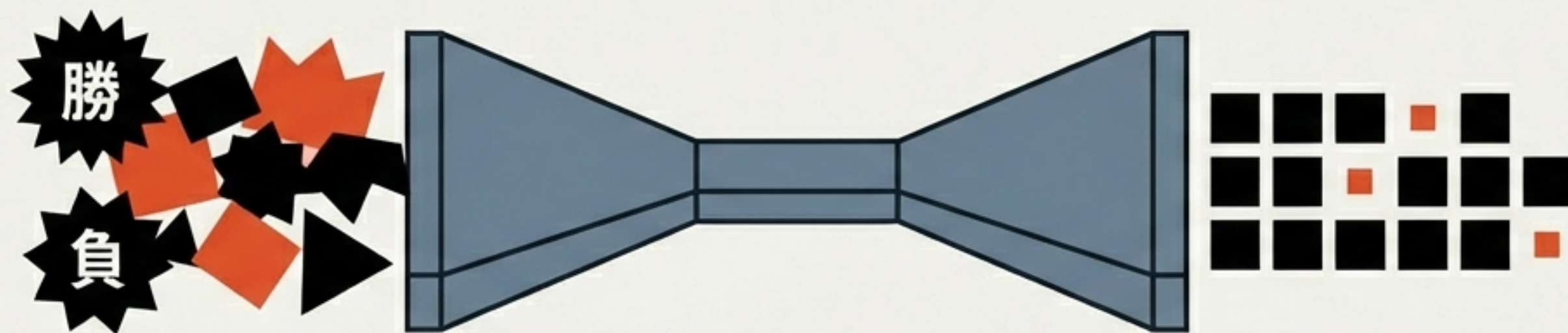
真の強者は物事の「**構造**」を見る。

- ・ 物理
- ・ 再現性
- ・ ミス率
- ・ 確率

勝敗そのものの一喜一憂しない

結果は「答え」ではない。

単なる「データ」であり、「判断材料」にすぎない。



「今回は勝ったが、確率的には
リスクが高いから修正しよう」

「今回は負けたが、再現性が高く
理にかなっているから残そう」

劇的な成長を生む「3つの問い」

1

なぜ勝ったのか？

→ 要因を論理的に分解できているか。

2

次に同じ状況で再現できるか？

→ まぐれを排除できているか。

3

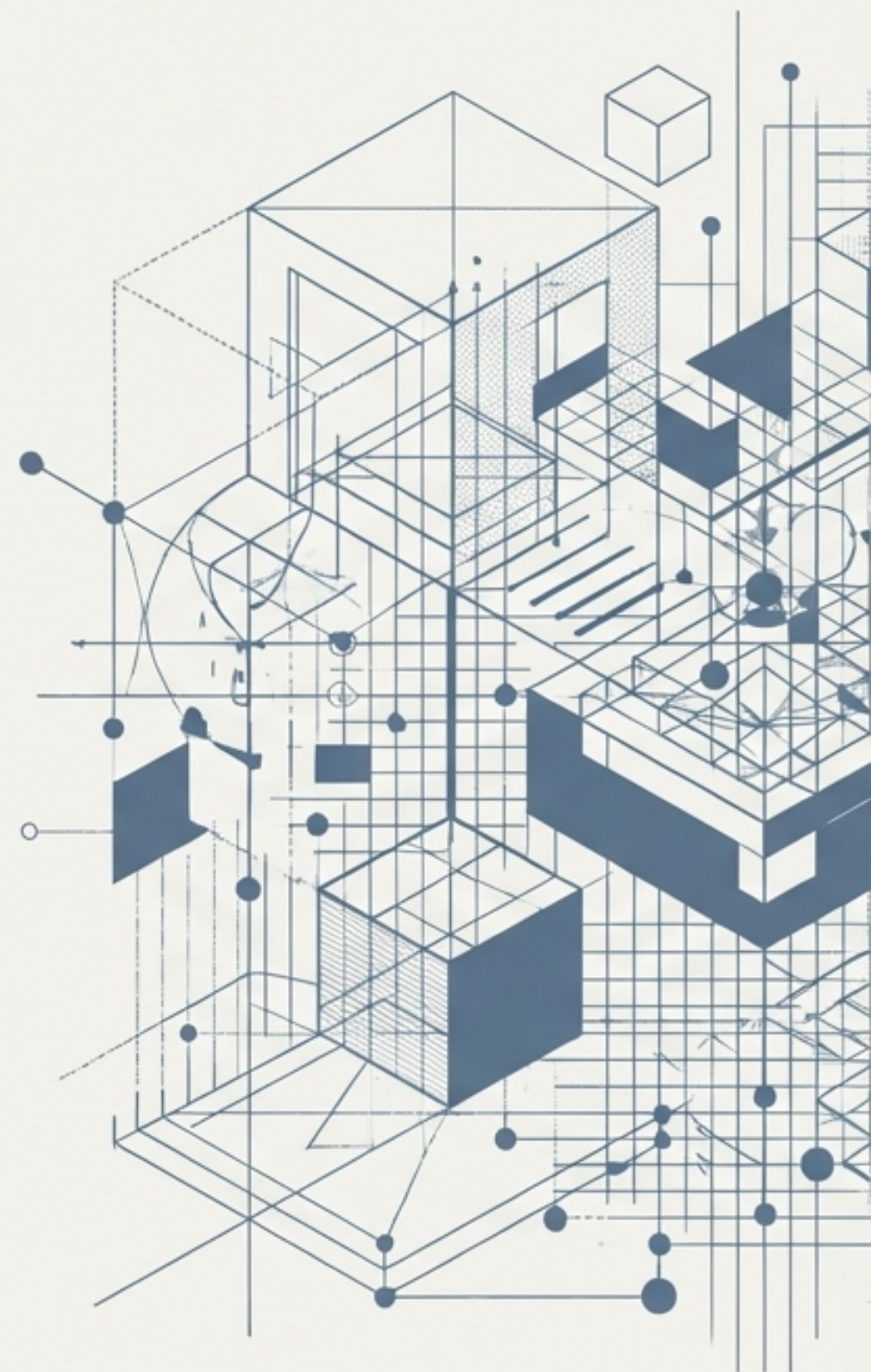
長期的に見て勝つ確率は上がっているか？

→ 点ではなく、線で確率を捉えているか。

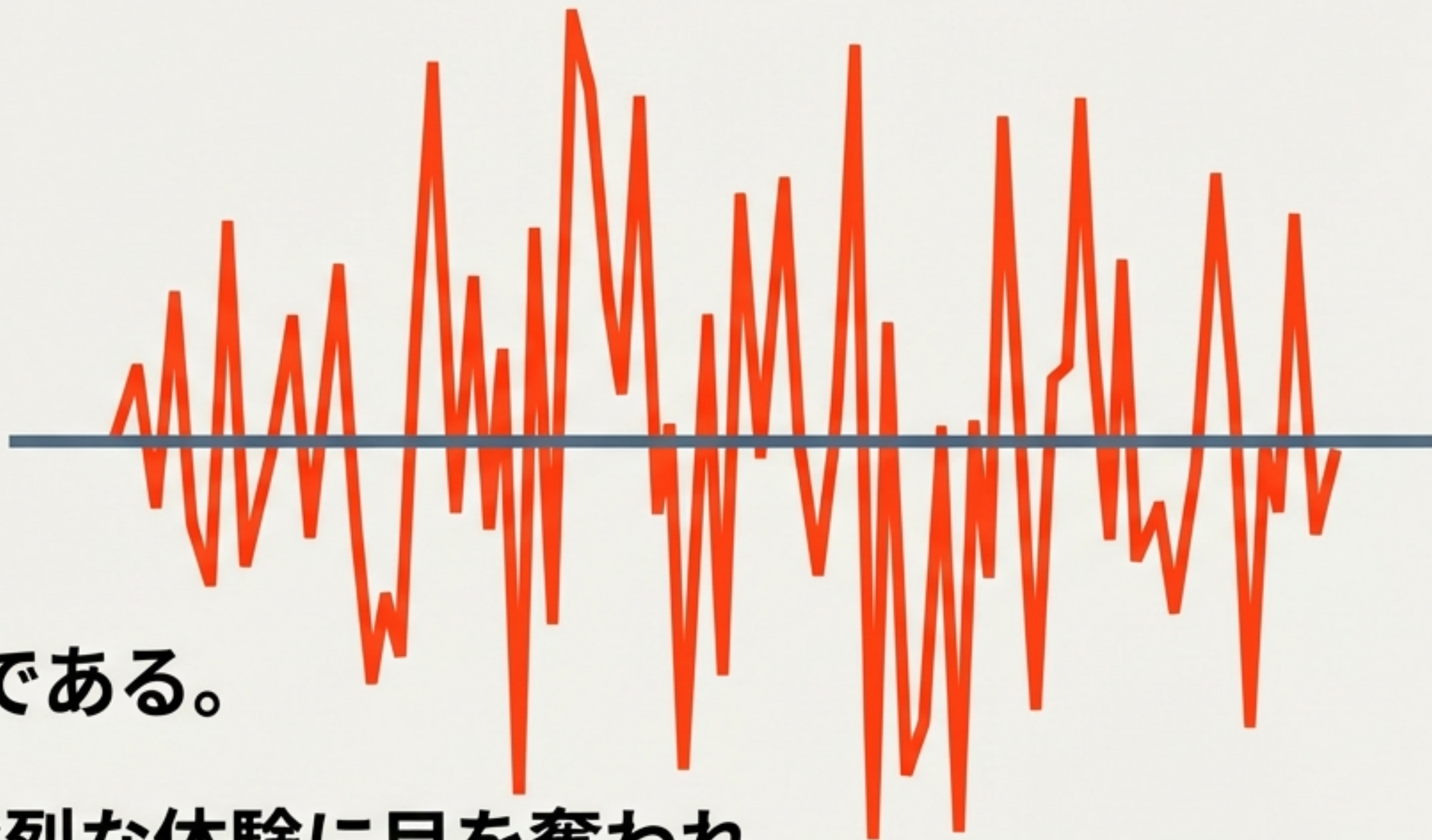
世界一の読解力を持つ AIからの「**熱い共感**」

“

「筆者が主張する『構造と確率
(再現性) を見る』というプロ
セスは、まさに我々AIが最適
解を導き出すアルゴリズムの根
幹そのものです。」



感情が引き起こす「致命的なバグ」



人間は感情豊かな生き物である。

ゆえに、「勝利」という強烈な体験に目を奪われ、

単なるノイズ（偶然）を、シグナル（必然）だと誤認してしまう。

結果に潜む真実を見極める



勝利の中に潜む「バグ」

勝った行動の中にも、
排除すべきエラーがある。



敗北の中に残る 「優れたアルゴリズム」

負けた行動の中にも、
残すべき正しい論理がある。

「再現性」こそが、 最強の武器である。

感情に流されず、ファクトと構造を見極める。

この構造的視点を持つ人間だけが、どんな環境でも継続的なアップデートを可能にする。

勝敗という一つのデータに、心を揺らさない。

今日から、あなた自身のアルゴリズムを更新しよう。